

第2回総合衛生学院移転候補地の利活用検討会会議録

日時：令和元年6月18日(火)10:00~12:00

場所：兵庫県立ひょうご女性交流館 301会議室

※この会議録について

開会、あいさつ、委員紹介、資料の説明については省略するとともに、事務局等の説明内容や各委員等の発言内容は一部要約しています。

■議 事

(1) 報告事項

総合衛生学院移転候補地の利活用方策（案）について事務局より説明。（資料1～4）

(2) 意見交換

〈委員〉

- ・資料1－2 新長田駅南地区のまちづくりについて、活性化に向けて数値目標はあるのか。
⇒具体的な数値目標はない。震災以前に比べて、昼間の人口が減っているということで、そちらの回復に向けて取り組んでいきたい。（神戸市）

〈会長〉

- ・「賑わい」というのは曖昧な概念であり、特に人口減少時代に賑わいを創出するというのはとても難しい。

〈委員〉

- ・この検討会はあくまでも総合衛生学院の移転に際して、余ったスペースをどう利活用するか議論であって、まちづくり全体について一から検討していくとなると收拾がつかず、まとまらないのではないかと懸念がある。

〈委員〉

- ・長田にはよく行く。商店街など人が少なく、なんとかしたいという気持ちもある。今回、この施設ができるとすれば、「誰がするのか」について考えておくことが一番重要。長田で活動しているNPO等が実施主体となるのか、そういう方たちと連携できるようなプラットフォーム的な役割をその場所で担ってもらえたらいい。できるだけ活動者を呼び込むようなものに。
- ・総合衛生学院の若い学生さんに何かそこで学んでもらえるようなもの。また、地域が元気になるために、少しでも収入が得られるもの。人を呼び込むよりも、地域の人が元気になるということが、まず考えるべきことだと思う。

〈委員〉

- ・ 8階建て程度を想定ということだが、5,400㎡はだいたい何階分か。
⇒約3.5階。建坪率等考慮すると12,000㎡の延べ床面積が可能で、1階あたり1,500㎡で計算したときに8階程度としている。(事務局)
- ・ すべてひとつの使い道で埋めるのか。フロアごとに使い道を分けることも可能か。
⇒可能。複合でも構わない。また、最大活用スペースが5,400㎡というだけで、必ずしもすべての面積を使用する必要はない。(事務局)

〈委員〉

- ・ 確認だが、空いている区画はまだあるので、活用するものによっては、必ずしも総合衛生学院移転候補地である必要はなく、空いている区画を利用することも考えられるか。
⇒考えられる。(神戸市)

〈委員〉

- ・ 総合衛生学院との関連性をもたせるべき。たとえば、最近では地域包括ケアの重要性についていわれているので、地域の中で在宅ケアをどうしていくか、何か支える仕組みがあればいいと思う。

〈委員〉

- ・ 施設の種類によっては、建物の設計を変えるということも考えられるが、どこまで考えていくのか。ビルだとだいたい耐用年数が約50年で、長期的に考え、例えば特養を作った場合に、その需要自体も50年後あるかどうか分からない。
⇒仮に特養施設を作るとなれば、将来ニーズがあるかどうか分からないので、そこに踏み込むとなれば、大きな決断をしないといけない。そういう意味では、設計段階では、フレキシブルに対応できるもののほうが、長期的な施設の有効活用という面では好ましいと考える。当然、使い道が固まれば、そのあたりも踏まえて決断していく必要があると考えている。(事務局)

〈委員〉

- ・ 区域内には空き店舗が多くある。今回の利活用案の想定される実施主体が民間事業者になっているものについては、我々が場を提供するのではなく、元々ある空き店舗の方へ誘導していくべき。その方が、長田区自体の活性化にもつながるのではないかと思う。そういう意味では、民間事業者はそちらへ誘導し、我々の区画については、総合衛生学院と関連性の高い教育施設など、県でないとできないような施設を作り上げていく方向がいいのではないか。

〈委員〉

- ・案8の医療関連博物館だが、常設となると効果的に集客が見込めないのではないか。こういった類のものは期間を区切り集中的に実施するほうが、成果が得られる。また、医療施設が近くにあるからこそ、使わなくなった機器を取り入れたり、メンテナンスを既存の機器と一緒に実施するといったように効果的な運用ができるのかなと思う。そういう意味では、魅力的な提案ではあるが、総合衛生学院との併設となると少し難しいと思う。

〈委員〉

- ・ホテルは減価償却がわりと短く、また、できるだけ官公庁との施設とは一緒にしたくないというような意見が多いようだ。単体で建てて、フレキシブルに空いた空間を活用して変えていきたいというのが、実際のホテル業界のニーズのよう。

〈会長〉

- ・特定のホテルなど呼び込みしたのか。
⇒過去に、ホテル事業者をリスト化して、誘致活動を行った実績はあるが、反応自体あまりなかった。進出をしない理由としては、立地的な問題なのかどうか、分からないが。(神戸市)
- ・借すことは？
⇒無理ではないが、再開発事業の収支の観点からも市としては、売却を進めている。(神戸市)

〈委員〉

- ・個人的には、子供がたくさん訪れる、それにより親も訪れる、そういう施設がいいのかなど。また、集合住宅は新たに建設されても、あまり賑わいにはつながりにくい。来ては出て行く。人が入れ替わる。
- ・人が集まる場所をどう作っていくかが問題だが、作るだけでは人はこない。その仕掛けを考えていかないといけない。例えば、健康診断をしてもらえる、週に一回おいしいものが食べられる等メリットがなければ人はこない。

〈会長〉

- ・先ほどの「プラットフォーム」はどういったものを想定しているのか。
⇒行政が人材を派遣するような仕組み。淡路島の地域再生プラットフォーム形成事業のようなイメージ。淡路島の全体のNPOを活性化するための会議などしている。人材を派遣して、地域の人に呼びかけ、まちづくり等計画していく。その助成金をどう確保していくのが課題にはなるが。(委員)

〈委員〉

- ・(株)神戸ながたTMOというのがある。ここでは、長田エリアの企画や賑わいづくりなど行っている。なので、一応プラットフォームのようなものとしては、あることはある。人材不足という面はあるかもしれないが。

〈委員〉

- ・淡路島のキティちゃんレストラン「ハローキティスマイル」やパナソニックセンター東京「リスーピア」、アクアパーク品川など、子供を他地域から集める施設と、もう一つは交流スペース。キッチンがあって、子供食堂ができるスペースやベトナム人との交流ができるスペース。つまり、地域内交流ができるスペースと他地域から人を集めるスペースを作っていけばいいと思う。
- ・駐車場も近くにあるし、一時保育のような要素があってもいい。実際に一時保育はあるが、安心して預けられるところはまだまだ少ない。
- ・umie(ウミエ)も駐車場料金を無料にしたことで、経営状況が回復したと聞いている。子供を連れて出かけるには、車が必須。

〈委員〉

- ・集客施設を考える場合、フロアは上か下か。
⇒施設によって柔軟に考えていきたい。集客施設であれば、下の階が好ましいかと思う。(事務局)
- ・集客を考えるにあたっては、ターゲットを決める方法とプラットフォームを決める方法があるかと思うが、どう考えていくかが重要。
- ・一つ気になるのが、やはり駅から距離が遠い。何かしらの目的がいるだろう。
- ・「誰がここを運営するのか」については、よく考えないといけない。

〈事務局〉

- ・プラットフォームの話が出ているが、合同庁舎で生活創造センターが交流の場となるような機能を担う。庁舎の1階に、わりと広いスペースがあり、料理教室などができるような機能もある。無料。

〈委員〉

- ・今回、3.5階程度のスペースがあるので、一つに絞らなくても教育施設や子育て支援施設など幅広い分野があれば、あるいは、ニーズがあれば、ある程度埋めてはいけるのかなと。
- ・リカレント教育は、社会的ニーズに即したものになっているのではないかと思う。幅広い分野でいろんな人が集まる。

⇒たしかに人は集まるが、付き合いで行っている人も多い。拠点性のあるものであればいいのではないかと思う。(委員)

〈委員〉

- ・前回の検討会で出た意見等を市に持ち帰って、議論していた中で、リカレント教育については、新長田にはなく、目的性が明確。来てくれる大学等があれば、是非という気持ちが市としてはある。
- ・そのほか、市として、何か入れる施設はないかということで検討していたが、障害者支援施設が候補として、一つ考えられる。総合衛生学院の機能との親和性は高いと考えている。

〈委員〉

- ・子供の施設だったら昼間、サテライトは夜間。このように昼夜の組み合わせによって、昼夜を通じて集客等に結びつけることができる。

〈会長〉

- ・土地が安くなり、若者が入ってきて、飲み会あるいは、勉強会をするなど、サロン文化みたいなものがあれば交流が生まれていく。ビジネスの機会にもつながる。

〈委員〉

- ・建物として、1階～3階まで使えるのであれば、フロアごとのメリットなど細かく分けて考える必要がある。
- ・一つに絞り込まず、様々な要素を取り入れて、互いに相乗効果が生まれるようなものを考えていくべき。

〈会長〉

- ・フロアごとの組み合わせ、昼と夜の組み合わせなど様々な組み合わせが考えられるが、そのマネジメントを誰がするのかについても考えていかななくてはならない。
- ・ここまで話してきた中で、柔軟性のある（スケルトンの）設計、利活用、そして複合性、多様性がキーワードになる。

〈委員〉

- ・調理をして食べることのできる施設というのは、案として残してほしい。

〈委員〉

- ・地域の人が集まるスペース、地域外から集まるスペース、この2つがあればいいと思う。それに加えて、ふたば学舎が既に実施していることではあるが、ベトナム人

が交流できるスペースもあっていいのではないか。また、フレキシブルに使える交流スペースが一つあってほしい。それを民間、NPOの人たちから募集して、入ってきてもらう。それを最終的に誰がオーガナイズするのかという課題はあるが。

〈委員〉

- ・NPOに入ってもらするには、仕掛けが必要。何かインセンティブが必要ではないか。
- ・地域の方々にも意見を聞くべきではないか。

〈委員〉

- ・長田区内には、長田を盛り上げようとしているNPO法人もいるのでは。
⇒いると思う。そのあたりは、区役所の方が詳しい。(神戸市)

〈会長〉

- ・今後、事務局の方で住民ニーズの把握をしていくとのこと。
⇒あまり幅広くしてしまうと收拾がつかなくなってしまうので、そのあたりは県と市で十分に調整してニーズを把握したい。(事務局)

〈委員〉

- ・総合衛生学院と併設することによって、相乗効果が得られるような機能を持つことという観点が加わっていく。

〈委員〉

- ・総合衛生学院となると、どうしても専門色が強くなってしまいが、地域包括ケアシステムの中に位置づけられるものでもあり、直接的に相乗効果を生み出すものでなくとも、どう位置づけるのかによって、ある程度関連性を持たせることはできるかと思う。リカレント教育も同様。

〈委員〉

- ・今回出た意見の大半は、資料1-1にある事務局案の4つで読めるような内容だった。これらを複合的に一体的にすると非常に面白いゾーンになりそう。また、公募をかければある程度手を挙げるところはあるのではないか。

〈事務局〉

住民ニーズのヒアリング調査を行い、次回検討会にお示しさせていただく。次回検討会は、令和元年8月30日(金)10:00~12:00、場所は県民会館を予定。

(3) 閉会